

## 第9節 地域の景観

### 1 小宛（牧原）地域の景観

#### ①小宛（牧原）地域の概要

##### 1 小宛自治区の成立（※1～2は『緒方町誌 区誌編』を参考にした）

江戸期	岡藩領小宛組に所属。牧原村、田良原村、小宛村、桑津留村から成る。
明治 8 年(1875)	四村が合併し、小宛村となる（その中の牧原組合となる）。
明治 22 年(1889)	町村制実施により、小富士村大字小宛となる（同上）。
昭和 30 年(1955)	町村合併により、緒方町大字小宛（同上）となる。
平成 17 年(2005)	町村合併により、豊後大野市緒方町小宛（同上）となる。

※牧原組合は、小宛自治区を構成する組合の一つで、景観選定予定地内に所在する。

##### 2 主な出来事

江戸期	長淵井路完成（文化年間以前）。
文久 3 年(1863)	平瀬（牧原・辻）井路完成。
明治 27 年(1894)	長淵井路延長工事・隧道工事で、牧原・辻へ通水。
大正 3 年(1914)	富士緒井路、末流まで完成。
大正 12 年(1923)	牧原橋架設。
昭和 58 年(1983)	牧原公民館竣工。
平成 5 年(1993)	台風 13 号災害で、牧原橋欄干流失。



写真1 牧原の棚田

##### 3 牧原組合の構成・人口など

戸数 11戸 人口 24人（令和元年12月）

#### ②牧原地域を潤す井路と景観

景観選定予定地の南西端に位置する牧原組合は、小宛自治区の集落の一つである。集落は、緒方川による侵食や堆積作用で形成された段丘の最上部に営まれている。集落の背後には杉やクヌギ林が広がり、前面の段丘には棚田が広がっている。対岸の県道7号から俯瞰すると、字天神前・字犬馬場の段丘は扇型であり、そこに形成された棚田の景観は見事なものである（写真1）。

緒方盆地地域では昭和48～54年にかけて県営圃場整備が行われたが、牧原地域は実施しなかった。段丘は3段で形成され、1段と2段の間に弧状に流れる長淵井路が確認できる。一見すると一つの井路により稲作が営まれているようであるが、実は富士緒井路の水



写真2 富士緒井路牧原線の分水地点

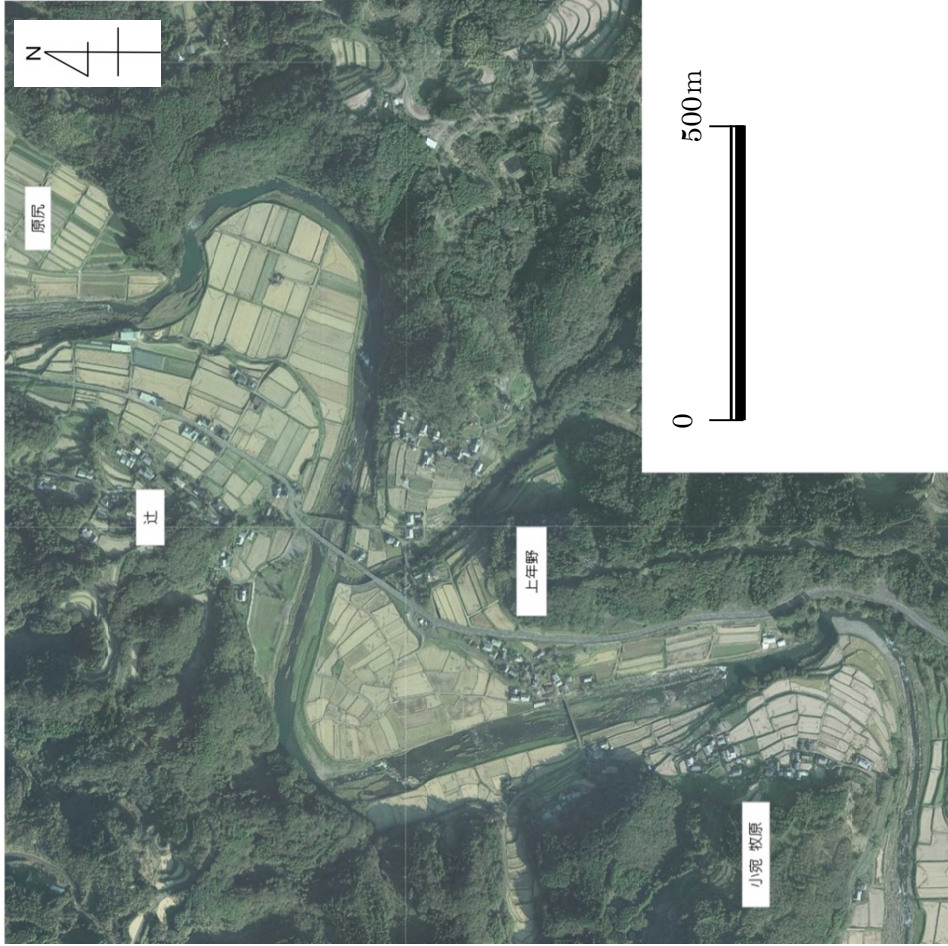


写真3 小宛（牧原）・上年野・辻の空中写真

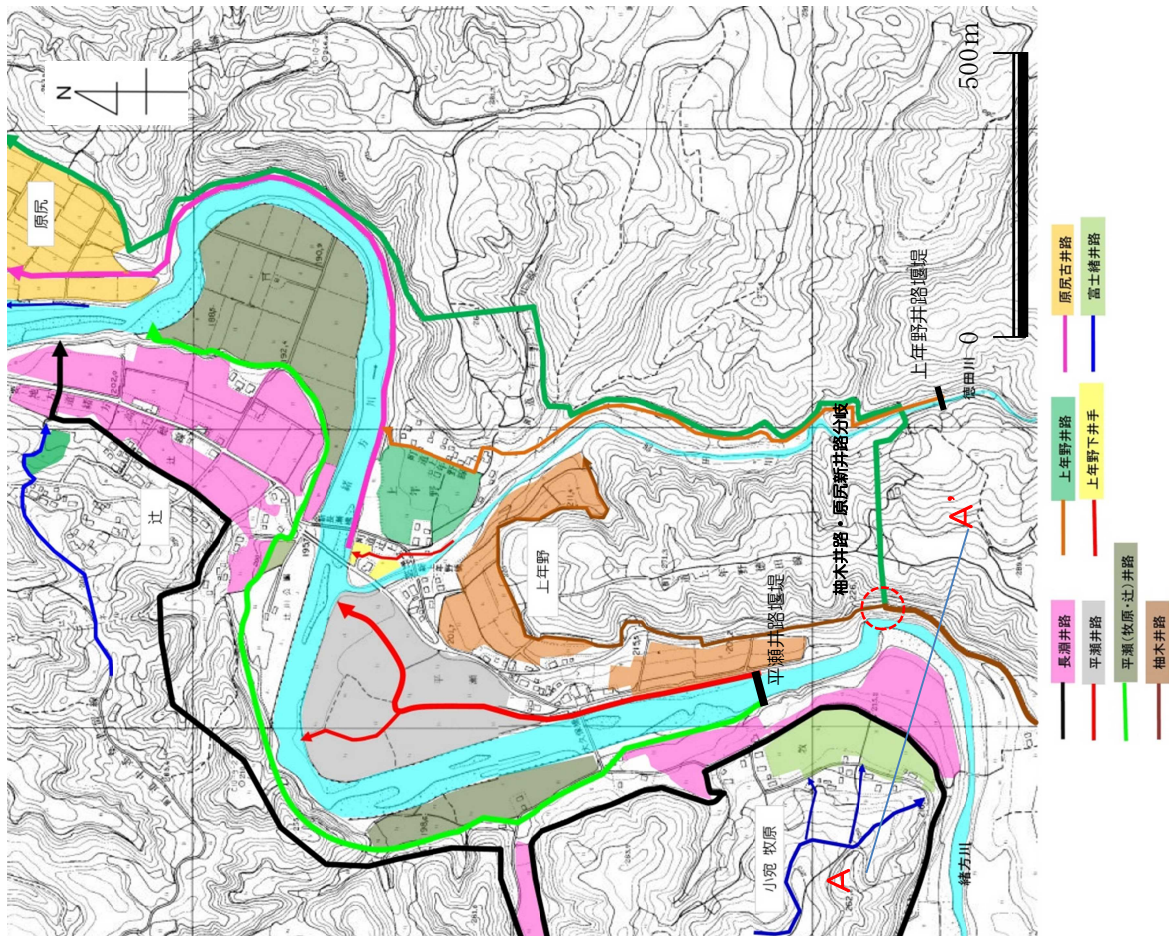


図4 小宛（牧原）・上年野・辻の圃場と井路



も利用しており、2本の井路により灌漑されているのである。

段丘の最上段は富士緒井路の末流（牧原線）により灌漑（2.5ha）される（写真2）。富士緒井路の主たる取水口は、ここから上流約15kmの大野川にある。長距離を開鑿し、主に小富士地域・軸丸地域を潤す富士緒井路には、驚くばかりである。2段目以下は長淵井路による灌漑（3.8ha）である。長淵井路の取水口は、牧原集落から上流約1.8kmの緒方町寺原枝石にある（写真4）。この井路は牧原集落を抜け、緒方川の普濟寺ヶ淵で隧道となり、辻集落で再び地上に姿を現し、辻の集落内の圃場を潤し（8.81ha）、原尻境で緒方川に流入する。

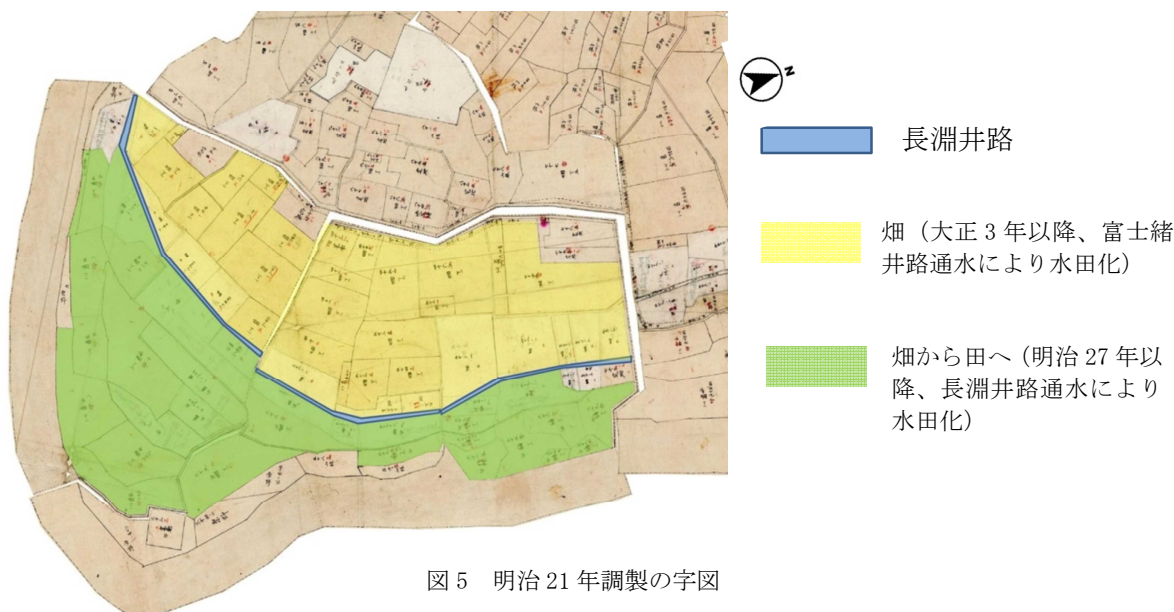


写真4 長淵井路の取水堰

図4は、牧原・辻・上年野地域の地形図である。約2km四方の圃場が、7本もの井路により灌漑されている。写真3は、牧原・辻・上年野地域空中写真である。現在の圃場の状態がよくわかる。牧原地域では圃場整備が行われなかったため、昔ながらの棚田形状がほぼ維持されている。

### ③牧原地域の旧字図と現況

図5は明治21年11月調製の字図である。黄色い着色部分は、大正年間の富士緒井路通水以前の状態で、地目は畑である。字図上の青い線は、長淵井路部分に着色したものである。長淵井路は明治27年に牧原・辻までの通水が完工している。緑色に着色した部分は字図上で「畑」から「田」に書き換えが行われた部分で、見事に水田化がなされている。黄色い着色部分は、富士緒井路通水後に畑から田へ地目に変更されているはずであるが、字図には書き換えの痕跡がない。いつまで使用された字図なのか不明であるが、明治27年以降の長淵井路通水の状況を示すものとして貴重である。現在の字図と明治21年の字図を比較してみると、土地の合筆や道路が拡張された以外は、ほとんど筆形状に変化がない。牧原の圃場は、明治20年代の長淵井路開鑿と大正初期の富士



緒井路開鑿当時の面影をよく残している。緒方盆地地域のほとんどの圃場で基盤整備が行われたが、ここには明治・大正時代に開発された水田の形態がよく残されている。

#### ④牧原地域の井路・圃場の模式図

図6は集落と井路、水田関係を表す模式図(図4 A-A'間)である。牧原集落の背後には急な斜面があり、そこを登ると緩傾斜地に至る。そこには富士緒井路の末流である牧原線が引かれている。灌漑用水は、牧原線から斜面を下り、集落内を抜け第1段丘面の水田を潤す。水田からの排水は、長淵井路に流入しており、排水を無駄にすることはない。

第1段丘と第2段丘の間に長淵井路が引かれ、第2・第3段丘の水田を潤している。排水は緒

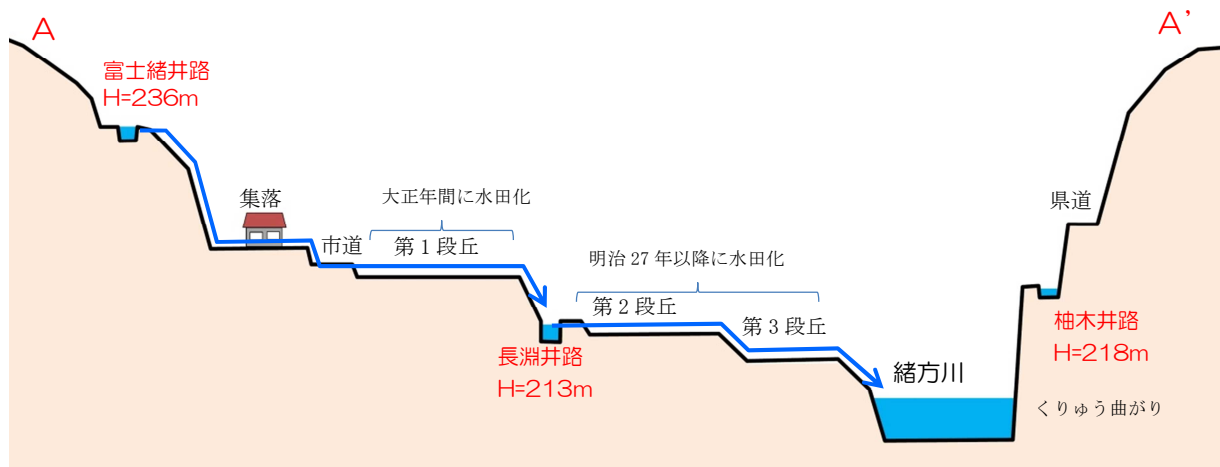


図6 牧原地域・井路・圃場の模式図



写真5 牧原地域・圃場・段丘・緒方川の位置関係



方川に流れ込んでいる。集落の対岸は、「くりゅう曲がり」と呼ばれ、緒方川の水が侵食し、垂直な断崖を形成している。断崖の上部あたりに柚木井路が引かれ、その上には県道7号（緒方高千穂線）が通っている。なお、それぞれの段丘面は緩やかに傾斜しているが、模式図では傾斜は表していない。


### ⑤牧原地域の景観を形作る構成要素

牧原集落の景観の最大の特徴は、「明治・大正にかけて開墾された井路のおかげで、畑地が水田化した。」ということである。景観を形づくる要素で重要なものは、棚田と井路の流れである。棚田では大規模な圃場整備はなされていないが、「狭地なおし」という小規模な圃場の拡大が行われている。田の面積を確保するため、河原石を積み上げた石垣が目立つ。

集落内の年中行事で特筆すべきものに、9月に行われる「かんじょ流し」という風習があった。棚田の中を川面まで下る一本道を降り、藁等で造った浮船に松明の火を灯し川に流す風習で、幻想的なものであった。緒方川でこのような行事が行われるのは、牧原地域だけであった。

表1 牧原地域の景観の構成要素

番号	要素名	写真	説明
1	牧原棚田の景観		富士緒井路、長淵井路により灌漑される圃場。大規模な圃場整備が行われなかったため、畦畔の曲線が美しい。
	棚田の石垣		長淵井路により灌漑される棚田の石垣。河原石で築かれている。
2	長淵井路とクンバ (汲ん場) 1		民家の前を流れる長淵井路とその水を利用するクンバ（汲ん場）。

番号	要素名	写真	説明
3	長淵井路と汲ん場 2		民家の前を流れる長淵井路とその水を利用する汲ん場。
4	くりゆう曲がりでの「かんじょ流し」		9月1日に、緒方川の「くりゆう曲がりの淵」で精霊流しを行う。行われていた。水神や平家落人の官女を祀る行事と言われる。

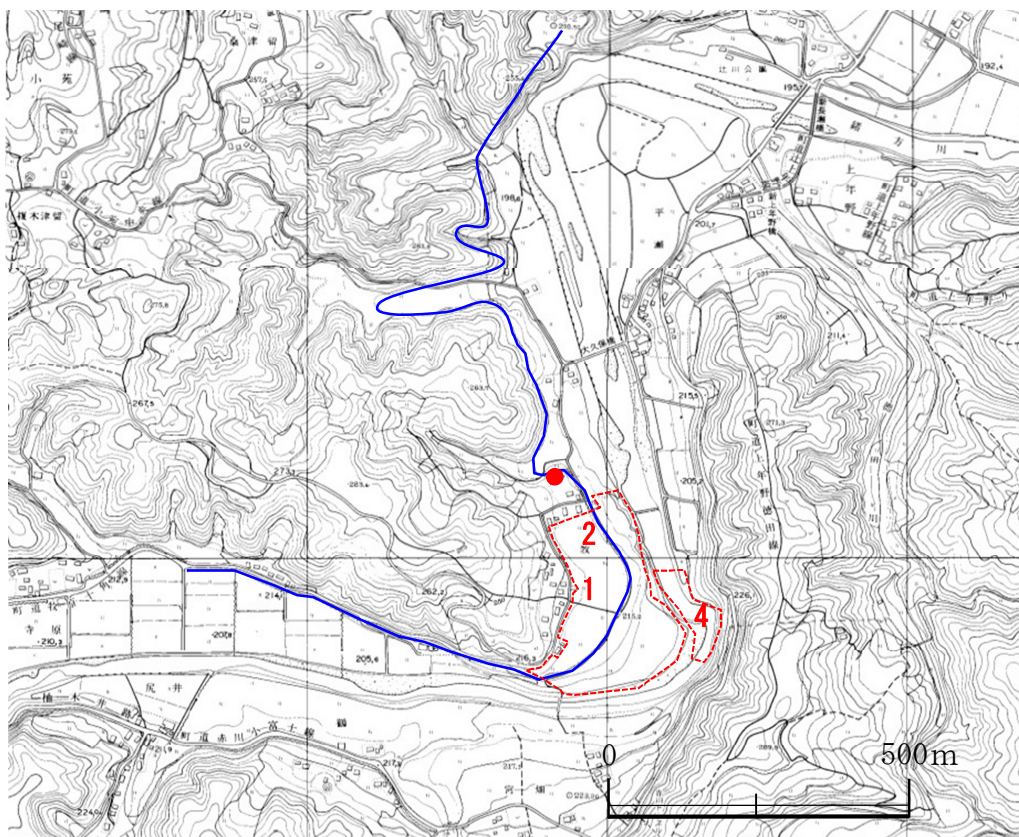


図7 牧原地域の構成要素位置図



## 2 上年野地域の景観

### ① 上年野地域の概要

#### 1 自治区の成立（※1～2は『緒方町誌 区誌編』を参考にした）

江戸期	岡藩領冬原組に所属。上年野村・平瀬村から成る。
明治 8 年(1875)	平瀬村を合併し、上年野村となる。
明治 22 年(1889)	町村制実施により、上緒方村大字上年野となる。
昭和 30 年(1955)	町村合併により、緒方町大字上年野となる。
平成 17 年(2005)	町村合併により、豊後大野市緒方町上年野となる。

#### 2 主な出来事

江戸期	平瀬井路・上年野下井手完成（年不詳）。
明治 15 年(1882)	上年野井路完成。
明治 26 年(1893)	緒方川、徳田川が氾濫し、大災害発生。
明治 31 年(1898)	柚木井路平瀬分線竣工。受益面積 5ha。
大正 3 年(1914)	上年野橋竣工。
大正 12 年(1923)	長瀬橋（6連のアーチ式石橋）竣工。
昭和 48 年(1973)	新長瀬橋架設（県道緒方高千穂線）。
平成 2 年(1990)	7月2日、記録的な豪雨災害発生。
平成 5 年(1993)	9月3日、大型台風の直撃により、平瀬共同精米所流失、床上浸水 2軒、床下浸水 3軒、流失・埋没水田約 3ha。牧原橋欄干流失。

#### 3 上年野地域の構成・人口など

組合名	新飼谷、平瀬、年野
戸数・人口	23戸、50人（令和元年12月）

### ② 上年野地域を潤す井路と景観

上年野集落は蛇行する緒方川の右岸にあり、平瀬・新飼谷・年野の3組合から成る（写真6）。

平瀬組合は上年野集落西側の緒方川を見下ろす段丘上にある。新飼谷組合は、緒方川と徳田川の合流点付近にあり、年野組合は、上年野集落東側段丘の最上部にある。集落は耕作地を活かすため、段丘の山際に形成されている。

上年野集落を潤す井路は、柚木井路（平瀬分線）・平瀬井路・上年野井路・上年野下井手の4本である（図8）。上年野地域の水田開発は、低地（第2段丘）である上年



写真6 上年野集落の位置図

野下井手や平瀬井路の開発に始まったと推定されるが、いずれも竣工年は不詳である。平瀬井路が灌漑する場所は「上田」という字名であり、古くから良い圃場であったことが推定される。年野集落の津留では、明治15年に上年野井路が開鑿され、第1段丘が水田化した。取水口は年野集落から南方約500mの位置にある。そして、明治31年に柚木井路平瀬分線が開鑿され上年野地域の水田景観ができあがった。

集落の南側の「くりゅう曲がり」には柚木井路の幹線が流れており、ここで平瀬分線と原尻新井路（明治33年竣工）に分岐している。原尻新井路は、徳田川と上年野井路の上部を渡河するため、上年野井路堰堤の下流50mの位置にアーチ式石橋を設けている。景観選定予定範囲の外であるが、上年野井路の堰堤とアーチ式石橋の景観は見事である。また、徳田川に沿って上年野井路・原尻新井路の2本が並走している眺めは特異である。

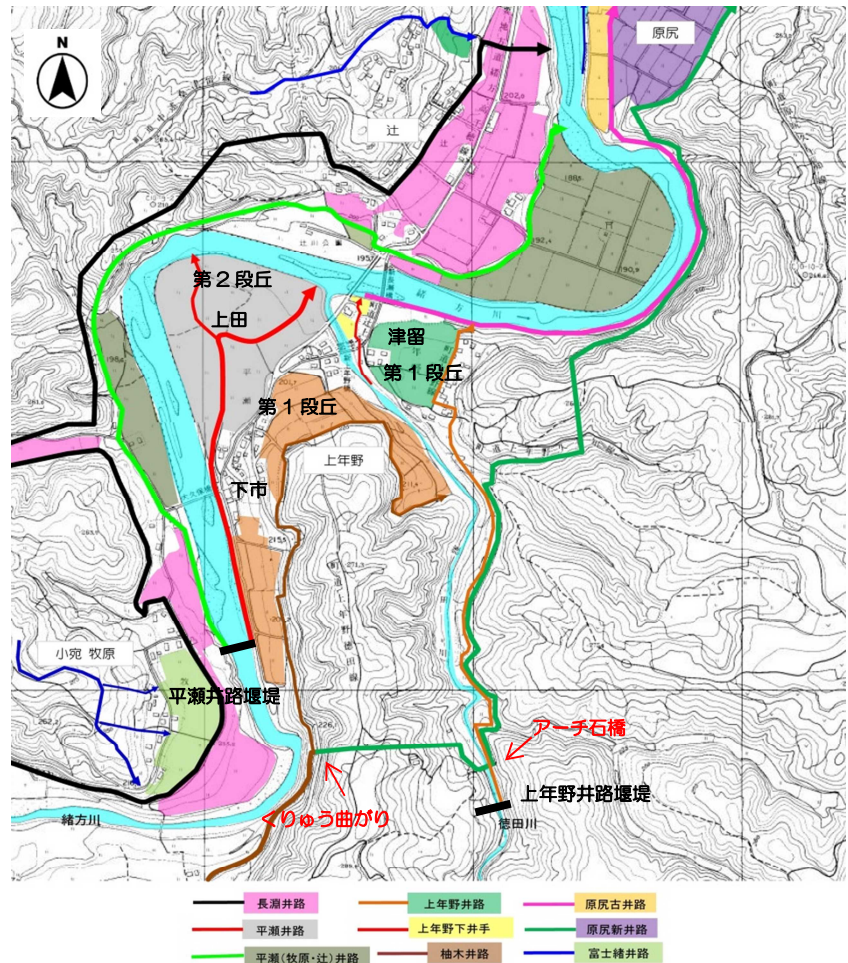


図8 上年野集落の井路と圃場

上年野地域を流れる徳田川と緒方川の合流地点には原尻古井路（正保2年竣工か）の取水口がある。大正12年に完成した長瀬橋（6連の石造アーチ橋）の下に取水口を設け、徳田川・緒方川の水が自然に流入する仕組みで、原尻地域の約18haの水田を潤している。6連の石造アーチ橋の上から見る原尻古井路の自然流入の流れは珍しい。

なお、平瀬井路の堰堤は、上年野集落に流れる井路と、牧原・辻集落に流れる井路と、2本の井路兼用の堰堤である。上年野を潤す井路の名称は「平瀬井路」であることは明確であったが、牧原・辻側では「平瀬井路」「広瀬井路」と一定していない。牧原・上年野を潤す井路は、便宜上「平瀬（牧原・辻）井路」と表記する。



写真7 長瀬橋と原尻古井路の取水口



### ③平瀬井路が潤す「上田」の旧字図と現況

平瀬井路で灌漑される水田は、昭和40～50年代に行われた県営圃場整備には加わっていない。農道は「リヤカーも通ることができない狭い道」（『緒方町誌区誌編』「上年野区」より）であったが昭和44年に農道整備を行い、農業の機械化が可能になった。図9は明治21年12月調整の字図（字上田）で、井路と河川が当初から青色で着色されている。「畑」地目に黄色く着色したが、それ以外は全てが「田」地目である。図10は現在の字図で井路部分を青く着色した。図9と比較してみると、井路・筆の形状がほとんど変わっていない。明治20年代の筆形状がそのまま現在に引き継がれている希な圃場である。平瀬井路の竣工年は不明であるが、圃場はおそらく江戸時代からの形を保っていると思われる。

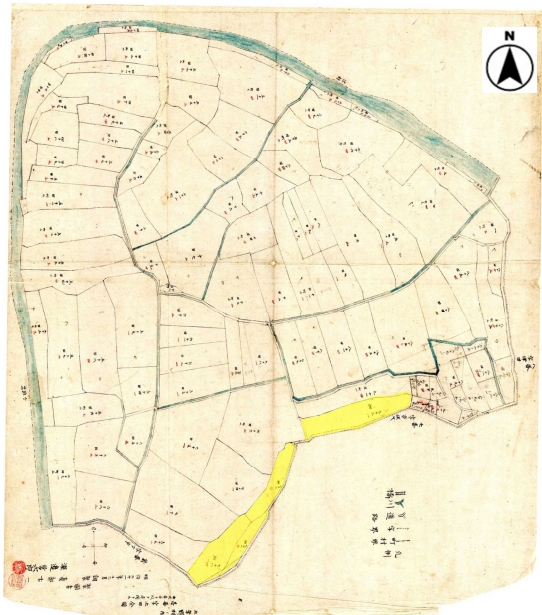


図9 字図「上田」（明治21年調製）

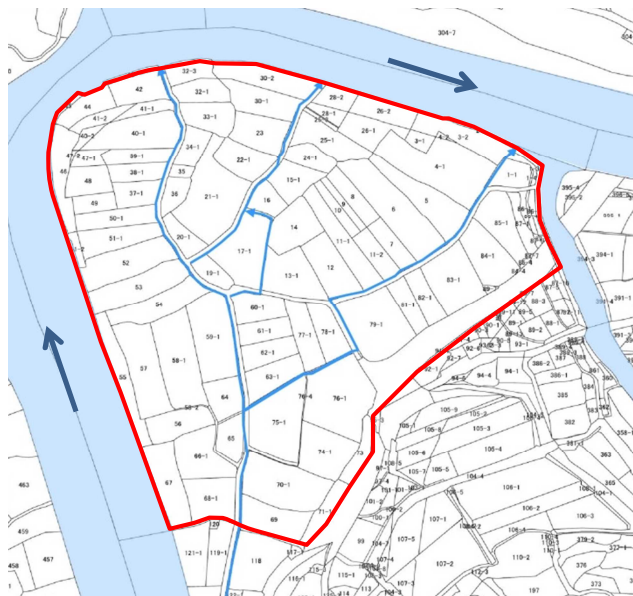


図10 現在の字図と平瀬井路の流路

### ④上年野井路が潤す「津留」の旧字図と現況

上年野井路は明治15年に完工し、同21年に上年野渠碑が建立されている。碑文の内容を要約すると次のとおりである。「年野集落は、山間の小村で、耕すところはすべて圃（畑）で、稲田を有する者は僅かであった。徳田川の水を20町ばかり引くことを計画し、2月に起工し6月に竣工した。圃を拓いて田と成し、面積は2町近くに及んだ。こうして、水は常に余りあるようになった。銘に曰く『天の祥を降せる 茲に此の水有り 作りて圃を田と為し 以て孫子に伝ふ』。石碑文には、開鑿当時の集落の様相と開鑿後の喜びが見事に表されている。同じ上年野地域でありながら、緒方川からの取水が容易であった平瀬井路とは大変な格差である。図11は、明治21年調製の津留の字図に上年野井路・上年野下井手の路線を加筆したものである。上年野井路は明治15年に竣工し、畑（黄色着色）は水田化しているはずであるが、21年字図では地目は「畑」のままであった。なお、成立年不詳の上



図11 字図「津留」（明治21年調製）

田化しているはずであるが、21年字図では地目は「畑」のままであった。なお、成立年不詳の上



年野下井手が灌漑する土地は徳田川の水を使い、既に水田となっている（緑色に着色部分）。

### ⑤ 上年野地域の井路・圃場イメージ図

写真8は上年野集落の空中写真に井路線と圃場の年代分けの線を入れたものである。第2段丘を潤す平瀬井路・上年野下井手の開鑿年代は不詳であるが、おそらく江戸時代には水田化していたと推定される。段丘の最上部（第1段丘）を潤す柚木井路平瀬分線・上年野井路の開鑿は明治になってからである。



写真8 上年野の圃場（段丘）と井路線

写真8の柚木井路の路線を見れば、長距離水路の開鑿がいかに大事業であったかがわかる。明治になってからの土木技術の発達を待たなければ、第1段丘の井路開発ができなかったことを表している。第1段丘のうち下市の水田は、圃場整備が実施されており、明治時代の圃場の面影は残っていない。図13は上年野集落の断面模式図（図12 A-A'間）で、距離は誇張して描いている。柚木井路

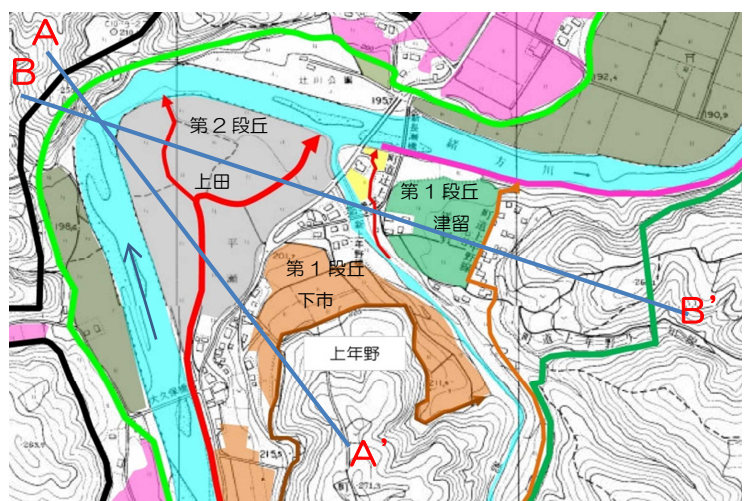


図12 上年野集落平面図



平瀬分線の標高は約 215mで長瀬井路の標高は約 210m、平瀬・広瀬井路の標高は約 195mである。

図 14 は上年野集落の断面模式図（図 12 B-B' 間）で、距離は誇張して描いている。柚木井路の標高が 220m、上年野井路の標高が約 210m、上年野下井手、平瀬井路の標高が約 195mである。これらのことから、標高が 200m以上の場所を水田化できたのは、明治になってからのことであることがわかる。なお、それぞれの段丘面は緩やかに傾斜しているが、模式図では傾斜は表していない。

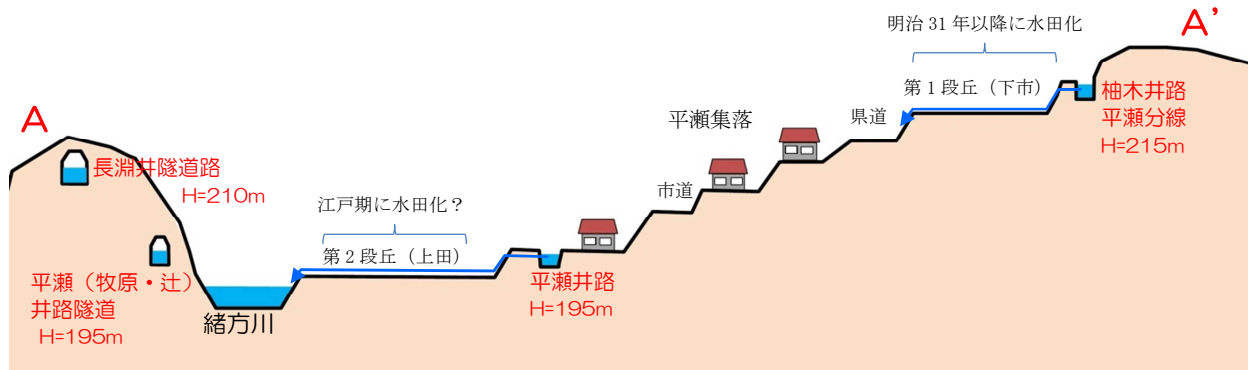


図 13 上年野地域断面模式図（図 12 A-A' 間）

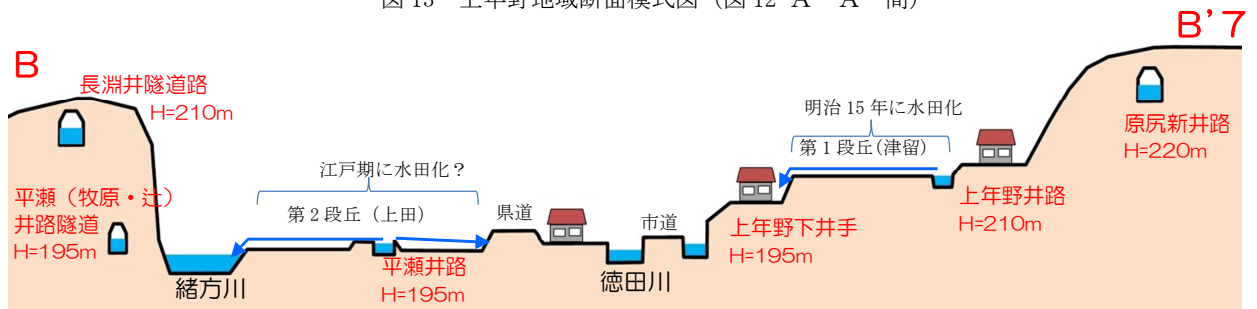







図 14 上年野地域断面模式図（図 12 B-B' 間）

### ⑥ 上年野地域の景観を形作る構成要素

上年野集落の景観の最大の特徴は、「江戸期に整開鑿されたと思われる平瀬井路とその灌漑する水田景観が、当時のままほぼ残されている」ことである。また「明治期に開鑿された上年野井路・柚木井路平瀬分線が、最上部の段丘を水田化した」ということである。景観を形作る要素で重要なものは、平瀬井路・上年野下井手・上年野井路・柚木井路（平瀬分線）の4本の井路の流れや取水堰であるほか、徳田川に架かる上年野橋（アーチ式石橋）、緒方川に架かる長瀬橋（アーチ式石橋）、井路沿いの住宅の石垣、上年野神社などである。

表 2 上年野地域の景観の構成要素

番号	要素名	写真	説明
1	平瀬井路堰堤(取水口)と平瀬井路		右岸が平瀬井路取水口、左岸が平瀬(牧原・辻)井路取水口。両井路兼用の堰堤である。

番号	要素名	写真	説明
2	平瀬の水田景観		明治 21 年調製の字図と比較すると、筆形状がほとんど変わっていない。江戸時代からの形状を保っていると推定される。
3	上年野御大師様		上年野地区には弘法大師像がなかったが柳井政夫氏・渡部生男氏が竹田の寺に頼んで今の場所に設置した。石柱に「昭和十年一月 奉酉年女」とある。平成 20 年に覆屋が新築されている。
4	長瀬橋		大正 11 年の豊肥線鉄道緒方駅開業に伴い、物資の流通を効率的に行うことを目的に建設された。大正 12 年完成。6 連アーチ式石橋で、豊後大野市最長（83m）である。
5	原尻古井路の取水口		上年野集落から下流の原尻地域を潤す原尻古井路の取水口。徳田川の水が自然流入するように井路堤防を構築している。正保 2 年開鑿と伝えられる。
6	上年野橋		徳田川に架かる旧県道の橋である。また、付近には長瀬橋がある。大正 3 年(1914)に架橋され、橋長 12.0m、橋幅 3.5m、径間 10.9m、拱矢 5.0m、環厚 50 cm の 1 連アーチの石橋である。橋の各数値は『緒方町誌 総論編』より引用。



番号	要素名	写真	説明
7	上年野下井手と取水口(堰堤)		新飼谷集落の圃場を潤す井路であるが、開鑿年は不明。石造りの堰堤と水路壁が見事である。
8	上年野天満社		年野集落の圃場の中にある。境内には地神塔が建てられている。建立年は不詳。夏祭り、秋祭り、霜月祭りをを行う。
9	上年野井路と集落の景観		標高の高い水田と低い水田に水を回すため、井路が並列して流れる様子。水の巡らせ方が面白い。道路沿いの民家(馬屋、オトシゴンヤ〔落とし小屋〕)や石垣が美しい。
10	上年野渠碑		明治15年に完成した上年野井路の記念碑で、明治21年に建立された。畑地から水田へ転換するため、井路開鑿に苦勞したことが記されている。
11	上年野井路と堰堤		上年野集落を流れる徳田川から長距離を導水する。景観選定の範囲外であるが、石造りの堰堤と井路堤防が美しい。堰堤から50m下流には、原尻新井路(柚木井路から延長)のアーチ式石橋が上年野井路の上を通過している。

番号	要素名	写真	説明
12	上年野井路の上を通過する原尻新井路(柚木井路から延長)の水路橋		景観選定予定範囲外であるが、井路の上を井路が通過する珍しい光景である。橋の向こうには、上年野井路の堰堤が見える。
13	柚木井路平瀬分線		明治31年に竣工した柚木井路平瀬分線。緒方川沿いの絶壁際を切り開き通水している。井路の維持管理を行うのが一苦勞である。
14	平瀬薬師堂		薬師堂の由緒は不詳。本尊は石に刻まれた薬師如来であるという。旧暦の6月12日に平瀬組合の1戸1名がお籠りを行う。

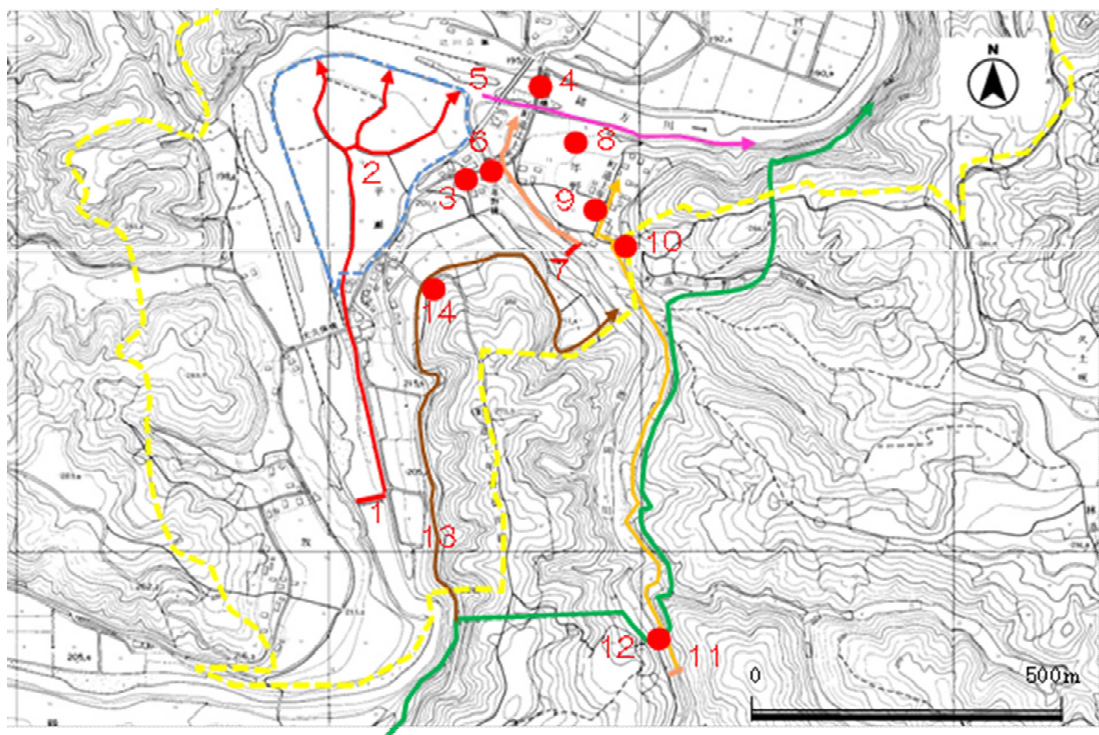


図15 上年野地域の構成要素の位置図